

専門基礎分野のねらい

専門基礎分野は、看護学を学ぶ上で基礎となる「人体の構造と機能」「疾病の成り立ちと回復の促進」「健康支援と社会保険制度」の3つの教育内容から構成している。

『人体の構造と機能』

解剖生理学は病態の理解や日常生活行動を援助する看護技術の土台になる科目である。呼吸をする・体を良い状態に保つ・動く・見る・聞く・話す・食べる・トイレに行くなどの生活行動は、すべてからだのはたらきの上に成り立っている。からだがこれをどのように成し遂げているのかを理解することが、看護実践や看護学にとっては必要である。そこで、日常生活行動そのもののしくみを看護の視点で理解できるように「解剖生理学Ⅰ～Ⅳ」を学習する。

生化学では、日常生活を営む上での生物学的生命の保持および、看護に必要な物質代謝と遺伝のしくみの基礎を学習する。

『疾病の成り立ちと回復の促進』

人体の構造と機能が障害された原因や誘因を学び、治療や回復過程を理解する基礎として「病理学」「感染症と微生物」について学習する。

そして、人間のからだの主な機能別に代表的な疾病とその治療について「病態学Ⅰ～Ⅴ」を学習する。さらに疾病に対する検査や治療として、放射線療法、手術療法および麻酔、透析、食事療法、薬物療法、リハビリテーション療法について「放射線医学」「ME」「栄養学」「薬理学」「リハビリテーション」を学習する。また、疾病によって生じる体の影響は、臨床検査結果からも知ることができる。からだをアセスメントしていくときに必須となる臨床検査に関する基本的な知識について「臨床検査」で学習する。

『健康支援と社会保障制度』

人間を生活者としてとらえ、その人にとって意味ある支援が提供できるよう、保健医療福祉に関わる基礎的知識として、「地域の健康と社会生活」「医療と法律」「公衆衛生学」「社会保障」「社会福祉」「関係法規」を学習する。